

中毒・環境因子

Poisoning and Environmental Health

シリーズ責任者：予防医学 教授 高田 礼子

1. シリーズ概要・学習内容

本シリーズでは、健康障害の発生において重要な環境要因のうち、主に物理的因子、化学的因子による疾患について取り上げる。

中毒の起因物質として代表的な金属、有機溶剤・有機化合物、有害ガス、農薬等の化学物質による中毒の機序、病態を理解し、症候、診断、治療、予防対策を学習する。そして、食中毒の病因、病態、予防法やアルコール中毒の病態と治療、さらに救急における中毒診療の概要についても学習する。

また、温度環境、気圧の変化、騒音、振動、放射線などの物理的因子による疾患の機序、病態生理を理解し、症候、診断、治療、予防対策を学習する。そのほか、粉じんによる疾患の病態、診断、予防対策、職業性因子による発がんの原因と病態、予防対策についても学習する。

これらの講義を通して、人間を取り巻く環境要因によって生じる健康障害の病態、症候、診断、治療について理解を深める。

2. 到達目標

- 1) 中毒学について概説できる。
- 2) 金属中毒の原因、病態、症候、診断と治療を説明できる。
- 3) 有機溶剤・有機化合物による中毒の原因、病態、症候を説明できる。
- 4) 有害ガス中毒の発生機序、症候、診断と治療法を説明できる。
- 5) 農薬中毒の発生機序、症候、診断と治療法を説明できる。
- 6) 食中毒の病態を説明できる。
- 7) アルコール中毒の病態と治療を説明できる。
- 8) 粉じんによる疾患の病態、じん肺の健康管理について説明できる。
- 9) 職業性因子による発がんの原因と病態、対策を説明できる。
- 10) 高圧、減圧環境における障害の病態、症候、対策を説明できる。
- 11) 騒音や振動によって生じる障害の病態、症候、対策を説明できる。
- 12) 加速度病の病態、診断、治療について説明できる。
- 13) 温度環境による障害と治療、高圧酸素療法の適応と治療について説明できる。
- 14) 電離放射線・非電離放射線による障害を説明できる。

3. 学習上の注意点

- 1) 本シリーズは講義内容が多岐にわたっているため、事前に参考書、配布資料等で予習しておくこと。
- 2) 講義終了後、各講義で示された重要事項について復習すること。
- 3) 有機溶剤中毒、有害ガス中毒、騒音による健康障害、粉じんによる疾患とそれらの予防対策については、「社会医学実習 3：中毒・環境因子」の実習時に必要な知識であるため、実習前に復習しておくこと。

4. 教科書・参考書

教科書：とくに指定しない。

参考書：『臨床中毒学』（医学書院）・・・（書評）急性中毒治療の原則や救急医療で遭遇する 101 の中毒物質による中毒の機序、臨床症状、診断、治療・予後について、詳細かつ専門外の医師でも分かりやすく解説している。

『産業保健マニュアル（改訂第 7 版）』（南山堂）・・・（書評）産業医が産業保健活動を実践する上で必要な知識の要点を網羅している。産業現場で発生する代表的な物理的因子・化学的因子による健康障害とその対策についてもコンパクトにまとめられている。

5. 成績評価

評価項目	実施回数	評価割合	備考
定期試験	1	100（％）	
授業態度		—	授業態度に問題がある場合、定期試験成績から減点する。
		100（％）	

6. オフィスアワー

所属	役職	氏名	時間	場所	連絡先
予防医学 （環境保健、 健康増進・ 疫学）	教授	高田 礼子	月曜日 12 時 30 分～13 時 30 分	医学部本館 4 階 予防医学教室	3425 （内線）
予防医学 （環境保健）	准教授	人見 敏明	水曜日 12 時 30 分～13 時 30 分	医学部本館 4 階 予防医学教室	3425 （内線）